

準備作業進めています。



岐阜・山火事跡地 森の再生
・植樹活動会場（各務原市）にて

そまもりふ



新しき山人たちの羅針盤

第 3 号

NPO 法人 山の社 学会

〒501-3744 美濃市曾代 512-1 3-B

TEL & FAX 0575-35-2799

URL: <http://www.somanomori.or.jp/>

e-mail: info@somanomori.or.jp

シリーズ

「日本の森林と

林業について考える」

森への想い

近頃よく使われる言葉として「癒し」という言葉があります。「癒し系音楽」とか「癒し系俳優」そして「癒しの空間」としての森林」このように、現代人は癒しを求めています。犯罪は近年益々凶悪化し、理由なき犯罪も増加してきています。精神の不安定性、人間性や社会性の欠如も顕在化してきています。これらの現象は、日本の森林荒廃と因果関係があると思つのです。

森林文化の研究者である森宏太郎氏は「人が人間のあり方だとか、人生の意味だとか、命の尊厳だとかを考えたり瞑想したりするには森や林はふさわしい場所ではないでしょうか。緑のない灰色の環

境の中では健康な肉体のみならず健全な精神を持ち続けることは困難なのです。よい空気とよい景色と自然との接触と静寂が、明日への活力や豊かな人間性を養う力になっていることは事実でしょう。」と述べています。

近年の日本の森林荒廃は、人間が森林に入らなくなった為におこっています。かつて、日本人は森林から生活の糧を得て、子供たちは森や林の中で遊びました。日本人の自然観や宗教観はここで育まれてきました。現代はどうでしょう。中高年の登山ブームやアウトドアブームも実生活から森林などの自然環境が切り離されてしまっている反動と捉えることができるのではないのでしょうか。今では子供達が森林の中に入っていくのは、環境教育という特別な教育活動に委ねなければならぬほど深刻です。

日本の森林面積は2,500万ヘクタールで、スウェーデンやフィンランドを多少上回る森林面積を持つそうです。国土の67%が森林で覆われ、森林率から見れば世界でも有数の森林国です。しかし、人口一人当たりの森林面積は0.20ヘクタールにすぎず、カナダのおよそ100分の1、アメリカの7分の1にすぎません。それでも、イタリアやドイツよりは多少上回っていますが、人口が都市部に集中しているために、多くの日本人は森林と密接な関係をもつて生活

をしていないのが現状だと思います。

前出の森氏によれば、都道府県別では人口一人当たりの森林面積が0.5ヘクタール(約70m四方)を超えているのは北海道の1ヘクタールを筆頭に、岩手、秋田、山形、長野、岐阜、島根、高知、宮崎の1道8県です。東京都と大阪府に至っては、人口一人当たりの森林面積は0.01ヘクタール(10m四方)という少なさです。大阪市の場合、森林と呼べる場所はありませんので森林面積は皆無です。東京23区では、森林面積は100ヘクタールであり、人口一人当たりの森林面積は0.00001ヘクタール(32cm四方)です。都内の最大の森である神宮外苑や、新宿御苑、上野公園にしても50〜60ヘクタールであり、パリのブローニュの森の860ヘクタール、ニューヨークのセントラルパークの308ヘクタール、ロンドンのハイドパークの142ヘクタールに比べても決して十分な面積とは言えません。日本のこのような状況からは、大都市内部やその周辺では日常的に森林と接する機会はなかなか難しいのが現状です。

また、日本の林業が産業構造の近代化、グローバル化の中で取り残され、産業として立ち行かない状況の中、多くのスギやヒノキの人工林が管理を放棄され、間伐や風雪害木の処理などの手入れのされないまま放置される森林が目に見えはじめてきました。森氏は次のようにも書いています。『アリストテレスは、アッチカにおける森林破壊を見てその都市国家の滅亡

を予言しました。古代ローマはローマ周辺の広葉樹林を伐採したため亡んだと言われていますし、古代フェニキアも造船の為にレバノン杉を伐りつくし亡びました。このように森林を粗末にした国民は、その気質の殺伐化により内紛が絶えず亡国の途をたどった例を歴史にはいくつも見る事ができるのです。』と。

日本は、数字の上では森林国と言われていますが、スギやヒノキの人工林の多くが管理を放棄された放置森林となり、市場原理からはずれた日本の森林の行方を案じずにはいられませんが。

森林の効用は、単に木材の生産や国土保全、水源涵養だけにとどまるのではなく、森林は気候を平準化させ、それに接する人間に対しては、かかるとできないほど大きい精神的、肉体的寄与をなすものです。

森林を整備し、管理していくことは人間が生きてゆくために必要なことであり、先人から受け継いできた日本の森林を守っていくことは私たちの使命でもあると思っております。特に、戦後を中心に植林された人工林の整備とそれをどう管理していくのかという問題は、大局的な解決策を見出せずにいます。日本の森林はもう待ったなしの状況にあるのです。その中でも、人工林の間伐については、もはや、できる人ができる場所からやっていくのが最も現実的な方法であると考えています。少しでも手遅れにならないようにするしかありません。手遅れになれば事態は益々深刻になるだけです。

21世紀、人類に掲げられた課題である循環型社会の構築のためにも木材資源は重要な資源であることは間違いありません。そして、人間が森林を含む自然環境を大切にすることに、よって得られる人間性の回復こそが最も大切なことなのです。

このような立場から、我々「木の杜学舎」は森林を整備することを使命(ミッション)と考えているのです。

(木の杜学舎 鈴木 章)

今号からの『日本の森林と林業を考える』いかがでしたでしょうか。引き続き連載していきますので、ご期待ください。

小倉山倶楽部のご案内

来る十月四日(土)に小倉山倶楽部(美濃市小倉公園)での森林ボランティア活動を行います。多くのご参加をお待ちしています。

日時 十月四日(土) 午前9時〜午後3時
場所 美濃市小倉公園
作業できる服装で、弁当・飲み物・タオル500円(保険料)をお持ちください。

詳しくは小泉まで 090-4189-9843

メール taro-k@somanomori.or.jp

杉の杜倶楽部通信

杉の杜学舎では会員の皆さんと一緒に、美濃市小倉公園での森林ボランティア活動『小倉山倶楽部』を進めています。この活動の中から、今回は7月に実施した、『小倉公園 公園づくり ワークショップ』について報告します。

実施したのは七月十二日(土)、午前中に小倉公園で下草刈を行った後、会場を岐阜県立森林文化アカデミーに移し1時から3時まで2時間行いました。参加者は会員、一般合わせて、20名でした。ワークショップでは3グループに分かれて、グループ毎に小倉公園をこうしたいという思いを地図にまとめてもらいました。

公園をヒノキ美林、雑木林、果実の林等のエリアに分けるといふ地図が描かれたのですが、なかには美濃和紙にちなんでミツマタ・コウゾ等の「繊維の森」をつくるというものもありました。また長良川、川湊公園に隣接という地の利を活かすため、「長良川を見下ろせるように木を切る」、「川湊公園へのアクセスをよくする」といった意見も出されました。他に遊歩道の整備や案内表示を設置するといった希望もあり

ました。

最後に参加者に活動のふりかえりをしてもらいましたが、「話し合いが盛り上がった」、「良いプランがまとめられた」といった書き込みがありました。また「除伐や下草刈りに取り組みたい」という書き込みも多く、ワークショップをボランティア活動への動機付けとすることができました。

杉の杜学舎では今後も「小倉山倶楽部」を続けていきますが、今回作った地図の可能な部分については活動のなかで実現していきたいと思っています。また、多くの方に「小倉山倶楽部」に参加していただけるよう、今後も参加者に興味を持ってもらえるよう色々な活動を行いたいと考えています。



「思い」を地図に書き込む参加者

今後の『杉の杜倶楽部』の活動

九月二十八日(日)に岐阜県百年公園(関市小屋名)で『木に親しむ山の祭り』が、岐阜県、ぎふ山の日運動推進実行委員会の主催で行われます。杉の杜学舎では、これに協力し『丸太早切りコンテスト』を行うことにしています。当日ご自由に参加頂きますので、ぜひおいでください。

このほか色々な団体が参加し、クラフト作り、森林観察などを行うことになっています。詳しくは九月一日の岐阜県広報『暮らしと県政』をご覧ください。

二面に案内のとおり、『小倉山倶楽部』を行います。ご参加よろしく願います。

十月十一日(土)～十二日(日)の二日間にわたり片生涯学習センターにて『間伐講習会』を実施します。最終面をご覧ください。

このほか、小倉公園に関するパネルディスプレイや片生涯学習センターでの各種イベントの実施を計画しています。内容が固まりましたら、ホームページ等でご案内いたします。

(杉の杜学舎 小泉 信太郎)

気まぐれ指数 100% コラム

会員のみなさん、こんにちは。まだまだ残暑
 厳しい日々が続いておりますが、本当はもう秋
 ですよね。まもなく本格的に秋を迎えるとい
 ことになりませんが、今回はその秋にちなんだ
 のを紹介したいと思います。（創刊号以来コ
 ラム欄というよりはなんか紹介コーナーにな
 ってきました？）秋になると、森の木々は次
 世代の子孫を残そうと木の実を付け始めま
 す。その中で木の下を歩くと、地面の上など
 に目にするものがありますよね。そうドン
 グリです。シイとかカシとかナラ類など色
 々あります。今回はそのドングリを使った
 「ドングリコーヒー」について紹介しまし
 ょう。「ドングリコーヒー」とはその名の
 通りドングリを材料にしたコーヒーのこ
 とで環境教育イベントで使われたり、山
 奥の喫茶店で「売り」にしている所もあ
 るようですので、ご存知の方もしらっし
 ゃるかもしれません。僕は実際、おとし
 の秋、岐阜県立森林文化アカデミーの学
 園祭「翔楓祭」の模擬店で初めて「ドン
 グリコーヒー」をインターネットを参考に
 作り、メニューとして出しました。爆発
 的に売れたわけ

はなかつたですが、訪れた人は大抵珍し
 そうに注文いただきました。
 そこで山ちゃん流レシピをイラストに
 紹介します。結構手間がかかりますが、
 興味湧いた方は一度作ってみては、本
 当に不思議とコーヒーの様な飲み物
 になりますよ。
 材料にするドングリですが、できれば
 マテバシイ、コジイ、スタジイなど渋
 味の無いものがよいようです。ちな
 みに僕はアカデミーの傍の公園に植
 栽されたあったマテバシイを使いま
 した。

(柚の杜 学舎 山中 巨)

1. ドングリを拾ってくる



2. ペンチなどで殻を割り、薄皮を剥く



5. オープントースターなどでローストする



7. 最後にドリップしてでき上がり!



4. 天日で一日くらい乾かす



6. コーヒーミルなどで粉末にする



3. 剥いたドングリをナイフなどで細かく切る



八月四日(月)～十五日(金)名古屋市立学校教育研究推進事業 実地研修生 松田さんを受け入れました。二週間にわたり活動を共にしました。森林や木材について今後の教育活動に生かされることを期待します。ご苦労様でした。研修の感想をまとめて頂きましたので、掲載します。

杣の杜学舎での研修を終えて

松田 庄平

「杉や桧がかわいくてしかたがない。」

私が八月四日からの2週間、杣の杜学舎に研修ということでお邪魔した中で聞いた最も印象的な言葉です。片知を瓢ヶ岳の方へ上がったいく車中で、手付かずになり、関心の薄くなった杉、桧の人工林の現状と想いを杣の杜学舎の鈴木さんが話してくれました。

中学校で技術・家庭科を教えている私は、日本の伝統的な森や木の文化について、森林や木材、ものづくりに関わる人々の活動について知りたいと考え、インターネットで「杣の杜学舎」を知り、半ば強引に実地研修をさせていただきました。

今年の夏は天候不順でしたが、それでも各務原の山火事跡地での里山再生のための地拵えはなかなかきつい作業でした。また、美濃市の森林景観整備事業などの下調べなど一般人にはわからない山仕事の現場に同行させていた

いただきました。普段は遊びに来た都会人という視点でしか見ていなかった山を違った視点で見ることが出来たことはとても有意義でした。どの現場でも関わっている皆さんの思いと苦労を感じました。

また、森林文化アカデミーの松井先生には、「ものづくり」について様々なお話を伺うことができ、特に飛騨古川町の木樵館での2日間は、そこに携わる人達の熱意に触れることができ非常に刺激を受けました。

わずか2週間、ほんの一端とは思いますが、森や木に向き合う仕事を自分の目で見て、体を使って感じる事ができたことはとても良い経験になりました。

この経験で、森や木の文化の復権のためには、様々な分野で同じようなことを考え、感じている人達をつなげるネットワークが何よりも大切であるということ。そして森の現場から、情報を発信することができる「杣の杜学舎」は、今、本当に必要とされているということを実感しました。

そして、私もそのネットワークの端っこに位置しながら応援し、自分の今いる立場から、日本の森(ちよっと大げさですね)やものづくりの大切さについて生徒たちに伝えていきたいと考えています。

最後に、杣の杜学舎の鈴木さん、山中さん、小泉さん、森林文化アカデミーの先生方そして学生のみなさんに心から感謝申し上げます。

これまでの活動(二〇〇三年六月～九月)

おかげさまで杣の杜学舎の活動が順調に増えています。今夏の活動を振り返ります。

「岐阜・山火事跡地 森の再生・植樹活動」(イオン環境財団・各務原市・岐阜県主催 NPO法人 杣の杜学舎協賛)における植樹予定地 約5ヘクタール(植樹イベント予定地 約3.1ヘクタール)の整地作業・植樹イベント計画・運営を受託しました。

現在、約2ヘクタール強の伐採・地こしらえを完了。七・八月は森林文化アカデミーの学生や会員の有償ボランティアの手助けを借りながら植樹イベントに向けて急ピッチで作業を進めています。

美濃市森林景観整備調査事業を受託しました。

美濃市の森林の現状と将来の森林管理の指針を作成します。この事業には、会員のアカデミー卒業生 河合 渉氏(有)ローカルサポートアソシエイト)の協力を得ています。去る九月一日に森林文化アカデミーの熊崎学長を座長として第一回目の委員会が開催され、調査事業の概要を説明しました。

